

研究・調査報告書

報告書番号	担当
283	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Predictors of initiation of alcohol use among US adolescents: findings from a prospective cohort study. 米国未成年者の飲酒開始の予測指標：前向きコホート研究からの知見	
執筆者	
Fisher LB, Miles IW, Austin SB, Camargo CA Jr, Colditz GA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Pediatr Adolesc Med. 2007 Oct;161(10):959-66.	
キーワード	
要旨	
<p>目的： 未成年者の飲酒開始および短時間大量飲酒(binge drinking)におけ予測指標を同定する。</p> <p>方法： デザイン：前向きコホート研究 状況：自記式調査票 参加者：1998年に11~18歳であった Growing Up Today Studyの参加者5511人。主暴露因子：個人、家族および社会的要因 主なアウトカム指標：最初の飲酒すべておよび短時間大量飲酒(binge drinking)。</p> <p>結果： 1998年から1999年の間に611人(19%)の未成年女性と384人(17%)の未成年男性が飲酒を始めた。以下の要因がアルコール使用(飲酒)と関連していた：高い年齢、成熟相の後期、喫煙、家庭での成人の飲酒、兄弟・姉妹に未成年飲酒者がいること、友人の飲酒、アルコール販売促進材を保有しているかそれを欲しいと考えていること、アルコールに関する好意的な考え。家族の夕食を毎日家で食べる未成年女性においては、数日か全く家族で食べない未成年女性に比べ、飲酒を開始する可能性が低かった(オッズ比0.66、95%信頼区間0.50-0.87)。社会的な自己信頼感の高い未成年女性と身体能力上の自己信頼感の高い未成年男性は自己信頼感の低いものに比べて飲酒を開始する可能性が高かった。飲酒を開始した10代のうち、149人(24%)の女性と112人(29%)の男性がさらに短時間大量飲酒(binge drinking)まで行っていた。女性でbinge drinkingと関連のあった因子は、アルコールに関する好意的な考え、兄弟・姉妹に未成年飲酒者がいること、アルコール販売促進材を保有しているかそれを欲しいと考えていることであった。男性でbinge drinkingと関連のあった因子は、アルコールに関する好意的な考えと高い年齢であった。</p> <p>結論： 一部の未成年者においては、家族で夕食を家で毎日食べることにより飲酒時期を遅らすことになるかもしれない。アルコール販売促進材は未成年の飲酒開始および未成年者のbinge drinkingを促進していると思われる。このことはアルコール業界におけるマーケティング規制の必要性の根拠となるであろう。</p>	